

地域が変わる
地域円卓会議を開いてみよう!



愛知県

目次

1. 新しい地域づくりは、地域のみんなの手で	・・・1
地域円卓会議の例	・・・2
2. 地域円卓会議とは	
(1) 地域の円卓会議はなぜ必要か	・・・3
(2) 地域円卓会議と既存の会議との違いは	
(3) 地域円卓会議を効果的に行うためのポイント	・・・5
(4) 地域円卓会議によって期待できる成果	
(5) 地域円卓会議のはじめ方	・・・6
(6) 地域円卓会議のステップ	・・・7

3. 事例紹介	
事例（1）愛知県知多郡阿久比町	
テーマ：「みんなでつくる あぐいの夢事業」	・・・8
事例（2）愛知県知多市南粕谷コミュニティ	
テーマ：「楽しくあそぼう！南粕谷ハウス」	・・・13
4. 地域円卓会議を企画しよう	
～活発な意見が出て、その後実践につながるような会議を作るには～	・・・18
(1) コーディネーターは誰が担うの？	
(2) テーマを設定しよう！	
(3) 参加者を選定しよう！	・・・19
(4) 地域資源を活用した視点で設計をしよう！	

5. 運営のいろは	
～会議のスケジュール設計と、その準備・進行について～	・・・20
(1) 会議の準備・進行をしよう！	
① コーディネーターの役割	
② ファシリテーターの役割	
③ 全体プログラムの設計	・・・21
④ 各回の設計	・・・22
(2) 結果をまとめて発表しよう！	・・・25
(3) 会議の結果を活用しよう！	
【コラム】地域円卓会議はキーパーソンを産み出す場？！	

6. おわりに

1. 新しい地域づくりは、地域のみんなの手で

高度経済成長は遙か昔。私たちは今、超高齢少子化や気候変動などの課題を内包した成熟期真ただ中の社会にいます。地域や社会の問題は行政や政治に任せるのではなく私たち一人ひとりが、自分の問題としてとらえ、取り組んで行かなければ、誰にとっても「安全・安心」な暮らしを実現することができません。

あらゆる人に居場所があり、役立ち感を得られる「ささえあうまちづくり」を目指し、地域の中で様々な立場にある組織や個人が力を合わせて課題に取り組む必要があります。

そのために有効な手段の1つは、関係する多様な主体が対等に話し合う場を設置することです。それも今までのような、取組の方向性が決定された事柄について話し合うのではなく、課題解決のための意思決定のプロセスから関与をすることが重要です。同じテーブルにつき、互いの考えや強みを理解し、それぞれの役割を主体的に果たそうという力が課題解決に向けた取組につながることを期待されています。

今後、地域の課題はますます多様化・複雑化していくことが予想されます。まずは、市民の力を信じ、地域の力を信じて一歩を踏み出してみてください。きっと共に歩む仲間が見つかるはずです。

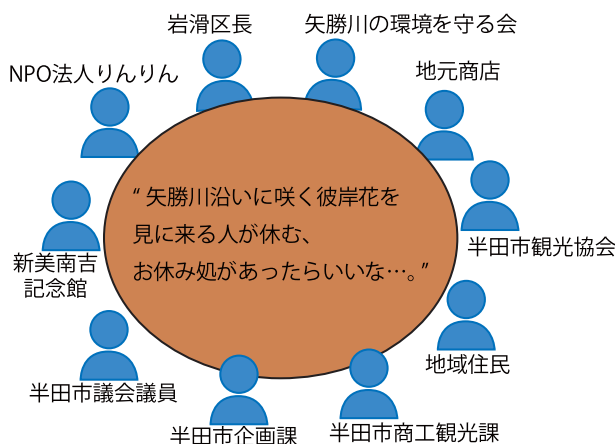


『童話の村 秋まつり』（愛知県半田市岩滑区）



「ごんぎつね」が代表作である児童文学作家、新美南吉の故郷であり、秋になると矢勝川沿いに200万本の彼岸花が咲き誇る半田市岩滑地区。この地域で介護保険事業、障害者自立支援事業、子育て支援事業などを行っている特定非営利活動法人（以下、(特)）りんりんの理事長を務めていた村上さんは、行列をつくって彼岸花を見に来ている人を見て「この人たちのお休み処があったらいいのにな。」と、ふと思いました。

2年後の平成19年。同じようなことを考えていた半田市観光協会の大番頭である榊原宏さんや矢勝川の環境を守る会会長の榊原幸宏さんと出会ったことで、勉強会を開催することができました。それをきっかけに、平成20年から「童話の村秋まつり」を開催するようになり、お休み処が作られました。矢勝川の環境を守る会や観光協会、区長、地元商店主、地域活動団体、新美南吉記念館、市会議員、行政などが実行委員となり、現在では全国から12万人の観光客が訪れる半田の秋の風物詩として根付くに至りました。



矢勝川沿いを訪れた人にお休み処をとという想いを持って集まったこの勉強会が、この冊子で紹介する「地域円卓会議」のイメージです。

では、どのようにして地域円卓会議を開くことができるのか、次頁より具体的にご紹介します。

2. 地域円卓会議とは

(1) 地域の円卓会議はなぜ必要か

地域には、「町内の自主防災会を機能させたい」「商店街の活性化に取り組みたい」「地域福祉の連携について考えたい」など多様な課題があります。ところが、これまでの専門化され、細分化された制度や組織による動きの中だけでは、課題を解決することは難しくなっています。

「地域円卓会議」とは、地域の問題や課題について、課題に取り組むNPO・企業・行政、地縁組織等の関係者が、対等な立場で話し合う場です。そうした対等な話し合いの蓄積によって「課題」の共有、お互いの立場や強みの理解、地域ビジョンやそのための解決策の設計、またそれに取り組んでいく際の各々の役割分担と段取りが決まっていきます。縦割り化された組織や個人や資源をつなぎ、地域とそこに住む人たちとの関係をつむいでいく、このような新しい場が求められています。

行政や市民、事業者など多様な主体が対等に対話を重ねる「地域円卓会議」では、共感や信頼が生まれ一人ひとりの個性や持ち味を引き出し、新しい動きを生み出していくことができます。

(2) 地域円卓会議と既存の会議との違いは

これまでも、地域の様々な主体が協議する会議は、例えば、行政が設置する協議会・審議会のような形で行われてきました。しかし、こうした行政主導の会議では、以下のような状況が生まれがちでした。

- ・意見聴取で終わってしまう
- ・方向性が定まっていて、新しい提案を受ける素地が弱い
- ・新しい提案について、それを理解する場や受け入れられない理由等の説明が不十分

これでは、参加者が納得し、協議の結果に関して自分たちも行動していこうという意欲につなげるのは難しくなってしまいます。

対して「地域円卓会議」では、地域の課題について何とかしたいと動き始め、つながり始めた市民活動や団体間のネットワークから提案を受けた行政や地域の中堅支援機関が、公共的課題として話し合いの場の設置を主導する役割を担います。NPO・企業・行政・地縁組織等が対等な立場で十分に話し合い、相互理解をしていくことが、話し合われたことの納得感や実現への意欲に結びつき、ひいてはよりよい課題の解決につながります。

そうした考え方をもち、会議を設計・運営していくのが、これまでの会議と異なる「地域円卓会議」のあり方です。

なお、国レベルにおいて、行政・事業者・金融機関・労働者・消費者・NPOからの代表によって、すべての主体が対等かつ主体的に参加する「社会的責任に関する円卓会議」が、平成22年3月に発足しました。この際、議論された4つのテーマのうちのひとつ「持続可能な地域づくり」のワーキンググループでは、「福祉、教育、環境、子育て支援、農林水産、観光など市民生活の多様な分野で、地域の人材や資源を最大限に活用し、地域内での経済循環を促すことで、最適なサービスを供給しうる体制を地域主導で確立する」ために、「地域円卓会議」の発足が呼びかけられました。

多様な課題に、対話と協働で挑む『地域円卓会議のススメ』

http://blog.canpan.info/dede/img/leaflet_final.pdf

Facebook 「地域円卓会議のススメ」

<http://www.facebook.com/chiikientaku>



また、愛知県がNPOや市町村担当者と設置する「NPOと行政の協働に関する実務者会議」では、「中長期的なテーマに対し、課題意識を共有し、施策レベルでの方向性を共有していくオープンな議論の場」が必要だと示されています。それを受け、愛知県では個別事業の企画立案前の「方策の検討」段階に行う「NPOと行政の協議の場」を提案しており、平成20年度には、そうした協議の場の設置・運営方法、協議内容のまとめ方を記した「協働ロードマップ策定手順書」を発行しました。

https://www.aichi-npo.jp/5_NPO_shien/1_aichiken/5_sonota_shiryo/guidebook.html

(3) 地域円卓会議を効果的に行うためのポイント

地域円卓会議のテーマや、エリア（協議の対象とする地域範囲）、会議の回数や事務局体制などは前提条件によって異なります。大切なことは、会議を効果的に行うために以下の4点を心がけることです。

- ① 対等な関係で人と人が出会え、対話を積み重ねられる会議
- ② 潜在もしくは顕在している地域の資源や力を引き出す会議
- ③ みんなが共感できる夢や地域の未来像等、公益的な共通のテーマを共有する会議
- ④ 持続可能な地域づくりを進める、実践につながる会議

(4) 地域円卓会議によって期待できる成果

参加者の成果

- ▶ ある特定のテーマを取り巻く状況や課題を総合的に理解することができる
- ▶ 参加者の内発性や主体性が引き出され、それぞれのテーマの解決策を実践していく意欲につなげることができる

地域の成果

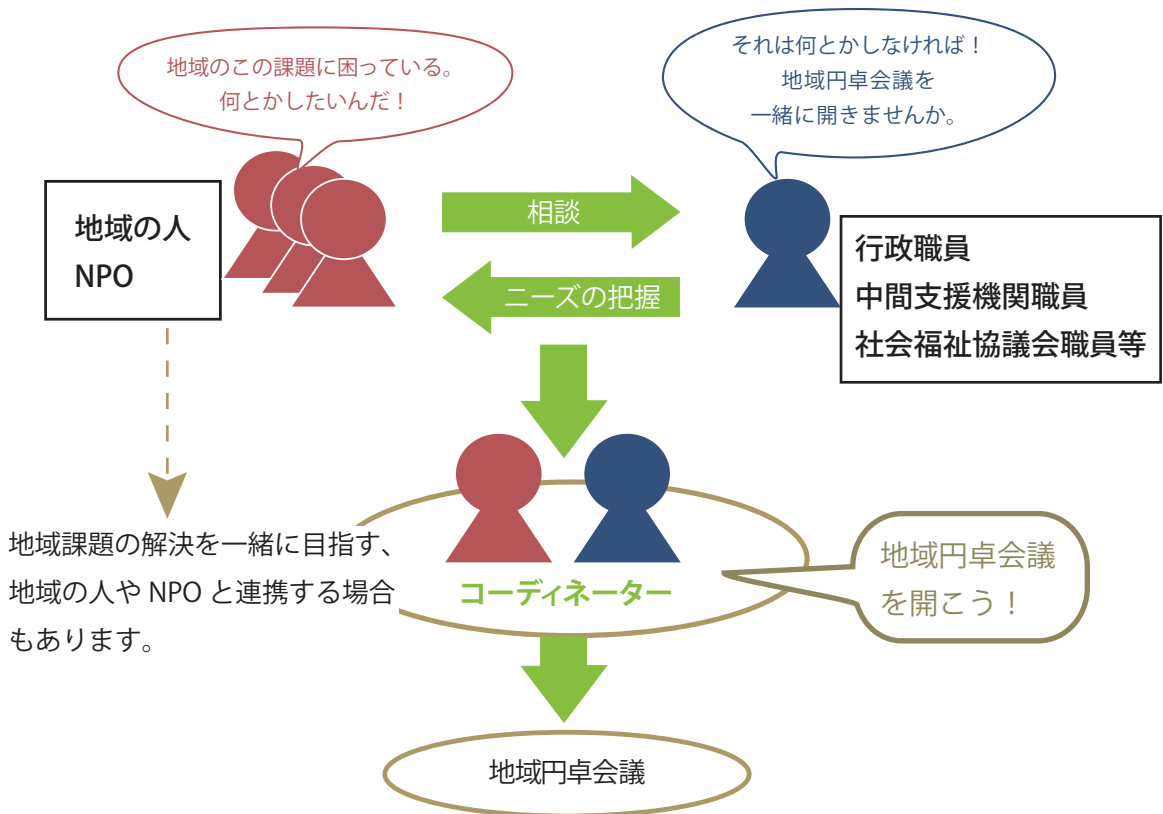
- ▶ 複数年に渡る見通しを共有し、会議の参加者が一緒に取り組むための道筋を立てることができる
- ▶ 連携して取り組むと、より効果的な事業を生み出すことができる
- ▶ 実践につながる具体的な資源、ヒト・モノ・カネ・情報を持ち寄ることができ、アイデアを寄せ合うことで新たな資源の掘り起こしができる

(5) 地域円卓会議のはじめ方

地域の問題や課題について取り組んでいる行政、中間支援機関、社会福祉協議会等が事務局となり、地域円卓会議をコーディネートしていきます。

まずは、自らの地域の課題に取り組んだり、「この地域の課題をどうにかしたい」という地域の人やNPOの相談に乗ることなど、地域のニーズを把握することから始まります。その課題に共感し、問題解決を目指して、地域円卓会議のコーディネートをしします。次頁の地域円卓会議のステップに従って、企画を進めてください。

特に、地域の人々の相談から始まる地域円卓会議の場合は、地域の人と連携してコーディネートをするケースもあります。そのときは、地域の人から課題に対する想いと地域の現状を聞き、常に密な情報共有を心がけましょう。



<地域円卓会議コーディネーターの心得三か条>

- 一、自分は何のために動くのか、常に問いかけ行動する
- 一、現場に足を運び、よく見てよく聴く
- 一、市民を信じ、話し合いの場を信じる

(6) 地域円卓会議のステップ

1. テーマの設定

テーマによって、県域、ブロック域（複数の市町村にまたがる地域、例えば尾張・三河等）、市町村域、学区域等、最もふさわしいエリアを決めます。

2. 参加者の選定

テーマの意思決定に欠かせない当事者や関係者、場合によっては専門家や有識者などを選定しましょう。どのような人たちに集まってもらうと現場の情報が得られ、かつ総合的な視野を持って話し合うことができるか考え、参加者を検討します。会議の設計意図や会議の目的をきちんと伝えて呼びかけましょう。

3. 会議の準備と進行

コーディネーターとともに各回のプログラム立案や進行を担うファシリテーターを選任します。達成すべき目標や成果イメージを明らかにし、全体の流れと各回の会議を組み立てます。

ファシリテーターは、参加者が参加・交流しやすい場を整え、成果につながるプログラムの進行をします。

4. まとめと公開

プログラムの進行状況を知らせたり、会議の結果について広く意見を募ったりするためのニュースレターや、ホームページの開設などを行います。

5. 結果の活用

地域円卓会議から生まれた実践を見守り、伴走支援をしていきます。

3. 事例紹介

事例（1）愛知県知多郡阿久比町 テーマ：「みんなでつくるあぐいの夢事業」

1. テーマの設定

① テーマ設定の背景

町内にある（特）もやい（安井洋子代表）では、築80年ほどの古民家を活用して、平成9年から在宅家事援助の有償ボランティア活動を始め、現在では介護保険事業、障害者自立支援事業、子育て支援事業、福祉有償運送などを行っています。平成21年「要介護状態にない高齢者のための居場所づくり」をテーマとした協議の場（愛知県主催モデル事業）の参加以降、阿久比町内の地域福祉ネットワークづくりとして、日本福祉大学の先生を囲み学習会を重ね、平成24年6月には、地域福祉フォーラムを開催しました。そこで、安井代表は、まちづくりの担い手のネットワークの必要性を痛感し、（特）地域福祉サポートちた（以下、サポートちた）へ相談していました。

一方、阿久比町では、平成24年4月に総務部政策協働課が新設され、同時に住民税1%町民予算枠制度を始めるなど、市民活動支援を推進していました。この機会に阿久比町内の新しい公共の担い手発掘と交流の機会づくりが必要との視点から、（特）もやい・行政・社協・サポートちたの4者が交流し、様々な主体が集い、まちづくりのビジョンを話し合う場を開催することとなりました。本事業では、地域の課題を何とかしたいと声をあげた安井代表と、何とかしなければ！と一緒に動き始めたサポートちたの職員を“縁結び^{にん}人”と呼び、縁結び人がコーディネートする会議を「地域縁卓会議」と呼んでいます。

阿久比町データ（平成25年1月4日現在）

面積：23.94km²、人口：26,923人、世帯数9,479世帯、高齢化率23.2%

阿久比町は知多半島の中央部、名古屋から南へ約25kmに位置しています。みどりあふれる自然環境と名古屋市の中心部や中部国際空港セントレアまで30分以内というアクセスの良さで、近年は大都市近郊のベッドタウンとなっています。歴史的には明治11年に阿久比谷16か村の統合により阿久比村が誕生。その後、昭和28年に阿久比町となり、平成25年は町制施行60周年になります。

② テーマの趣旨

阿久比町行政・社会福祉協議会の協力の下、多様な事業者、団体、住民が参加し、今後の阿久比町の課題について協議し、まちづくりのビジョンを共有することを目的としました。全体を通してのテーマは10年後の阿久比町を協働でつくっていく「みんなでつくるあぐいの夢事業」と設定しました。

2.参加者の選定

☆ メンバー構成に配慮したポイント

- ・地域の中で具体的な活動や事業を実施している人を選ぶ
- ・団体・組織の代表にとらわれず、現場をよく理解している人を選ぶ
- ・10年後というテーマのため30代など若手も選ぶ

☆ 参加者の構成 (12名)

	所属	役職	性別	年代
N P O 等	地域農業者		男	40代
	阿久比町更生保護女性会	会長	女	60代
	子育てネットワーカー		女	40代
	JAあいち知多助け合い組織 ぬくもりの会		女	50代
	特定非営利活動法人もやい	監事	男	60代
	社会福祉法人阿久比町社会福祉協議会※	福祉専門員	男	30代
企 業	株式会社アグメント	取締役室長	女	30代
	株式会社CAC阿久比営業所	所長	男	30代
	株式会社デンソー阿久比製作所	総務人事厚生課係長	男	40代
	阿久比町商工会	事務局長	男	50代
行 政	阿久比町教育委員会学校教育課	指導主事	男	50代
	阿久比町総務部政策協働課※	主事	男	30代

※オブザーバーとして参加

☆ 会場の様子



グループでの話し合い



第3回 現場見学

3.会議の準備と
進行

☆事務局体制

- ・コーディネーター：(特)もやい1名、(特)地域福祉サポートちた2名
- ・ファシリテーター：水谷香織氏(パブリック・ハーツ(株)代表取締役社長)

☆地域円卓会議スケジュール／会場：阿久比町中央公民館(第3回 現場見学)

回	日時	目的	内容	参加人数
1	9/28(金) 13:00~15:30	相互理解 現状の課題の 共有	・自己紹介 ・阿久比のこれからの期待、 今困っていること(グループワーク)	12名
2	10/26(金) 9:30~12:00	相互理解 阿久比の未来 を想像する	・前回からの変化・よい兆し (インタビューゲーム) ・個々の10年後と具体的な取組 (グループワーク)	12名
3	11/7(水) 9:30~12:00	相互理解 現場見学	・取組の紹介(見学バスツアー) ・協働できそうなこと(全体共有)	12名
4	11/29(木) 9:30~12:00	相互理解 今後に向けた アイデア出し	・前回からの変化(全体共有) ・このメンバーでやってみたい、 おもしろそうなこと (グループワーク・お見合いタイム)	12名
任意	12/12(水) 19:00~22:00	“望年会” (忘年会)	・参加者の声かけにより、自由参加の懇親会 を(特)もやいにて開催	8名
5	12/21(金) 13:00~15:30	相互理解 今後に向けた 取組の具体化	・前回からの変化 ・みんなでつくる あぐいの夢事業	12名

☆ コーディネーターの動き

- ・事前に阿久比町に話をもちかけた際、特に「地域円卓会議」の意図がわかりにくいため、時間をかけて説明しました。「何が成果として生まれるのか、事前に予定されていない会議」の意義は行政には伝わりにくかったようです。また、参加者一人ひとりに行政・社協・コーディネーター3者で参加依頼に行きました。
- ・普段は、丁寧なやり取りと、一人ひとりへの気遣いを心がけ、相手を知るために会議毎のニュースレター（協議の様子を記した手づくり新聞）をまとめ、手渡しをして、日頃の仕事の話や、会議の感想などを聞き、情報共有するように努めました。その際話をしたことなどは、ファシリテーターにも情報共有するよう心がけました。
- ・必要に応じて設計会議での決定事項を参加者に伝え、一人ひとりに考えてもらうきっかけづくりをしました。
- ・参加者から案内をもらったイベントには出席し、会議以外の時間を共有したことで新たな連携の可能性を会議の場で引き出すことにつながりました。

☆ ファシリテーターの目線

「阿久比の方々の新しい繋がりと取り組みが生まれることを期待した地域円卓会議。メンバーお一人お一人がとても魅力的でしたので、ただただ相互理解を深めました。阿久比と個々の『未来と今』を丁寧に共有することで、皆さんの思いや関心ごとがいろいろな形で繋がるマルシェ構想が生まれました。まさに、“みんなでつくるあぐいの夢事業”。まるで未来の阿久比のマルシェがそこにあるような新芽ほころぶ生命感に溢れていました。」

☆ 参加者の声

- ・いろいろな職種の方々とお話ができ、とても有意義な場であると感じました。
- ・縁結び人の役割が重要だと思います。
- ・前例や固定概念に捉われず、多角的な視点からの話し合いは有効と考えます。
- ・5回を通してつながりを深める事ができました。個々のつながりだけではなく、つながり（ネットワーク）全体をつかむことができたことが、私にとって大変有意義でした。
- ・現実的な見通しも大切ですが、それを度外視して理想を語り合うことも大切であると感じました。大人が夢を語らなければ、子どもは夢を持つことはないので、このような理想を語り合う場が、今後も増えるといいなと思いました。
- ・第2回までは、本当に自分が参加していいのかと思っていましたが、全5回しかない貴重な会議を有効にしたいと思い始めた第3回からは新しい発想や、今までつながりのなかった人とも積極的に話をし、接点が見えてきました。
- ・話し合いの結果何も形として残らなくても、何かの種は植えることができたと思います。種から芽が出れば、育てようと思う人が必ず出るでしょう。

4.まとめと公開

☆ 会議の結果

平成28年にむけて、阿久比マルシェ構想ができました。『MADE in あぐい』を持ち寄り、赤ちゃんから高齢者まで誰もが集える市民参加型の市をイメージしています。素人が作った野菜も出店が可能で、スーパーなどがなくなった地区での販売も行い、お金の循環も作り出すというものです。昔から阿久比に住む町民や、転居してきた町民、老若男女問わず気軽に立ち寄り、多世代が交流できる場にもしていきます。平成27年には阿久比町新庁舎が完成することに伴い、場所は新庁舎前の芝生広場と提案されました。

第4回までのまとめ

アグイズム (一連のこの動き)

まちのビジョン	取り組みの柱	具体的取り組み	来年度予定されている事業
MADE in あぐいで 立ち寄りたくなるまち 誇れるまちをつくる	① あぐいブランドの製品をつくり、活発な商業を展開する	<input type="checkbox"/> 米と蕎麦で <input type="checkbox"/> 花 <input type="checkbox"/> ファミサポ市民版 <input type="checkbox"/> アグビーの活用 <input type="checkbox"/> 阿久比商品券	・田んぼアート ・「知多美人」ブランド ・知多半島ブランド ・古代米(米姫・甘酒)
	② あぐいブランドの商品や、阿久比の住民、外部の人が集う場をつくる	<input type="checkbox"/> マルシェ(市) <input type="checkbox"/> 居酒屋 <input type="checkbox"/> ファーム <input type="checkbox"/> 婚活 <input type="checkbox"/> 転入者と交流 <input type="checkbox"/> 体験型イベント <input type="checkbox"/> 高齢者の集う場	・リユース市(子ども用品) ・ひなまつり展 ・mamaフェスタ ・住民税1%町民予算枠事業 ・子ども教室 ・福祉実践教室 ・PTA子どもへのメッセージ
	③ あぐいをよりよいまちにするために、自発的に社会貢献活動する人を育てる	<input type="checkbox"/> 食育 <input type="checkbox"/> 観光ボラ <input type="checkbox"/> 自治区調整 <input type="checkbox"/> 文化技術伝承	
	④ 一連の取り組みをPRする	<input type="checkbox"/> マップ <input type="checkbox"/> ㈱CAC	・番組づくり企画 ・防災(㈱デンソー)

5.成果の活用

全5回の会議終了後も、コーディネーターが参加者の伴走支援をしています。見学できなかった企業の現場見学をしたり、特定非営利活動法人を設立するという話が出たり、互いのイベントを知らせ合ったり、マルシェ構想に向けて連携の方向性を見出せる流れがあります。この流れが途切れることがないように、交流会を継続することになりました。

事例(2) 愛知県知多市南粕谷コミュニティテーマ:「楽しくあそぼう!南粕谷ハウス」

1.テーマの設定

① テーマ設定の背景

昭和58年に発足した南粕谷コミュニティは、平成10年、小学校の空き教室を活用した生涯学習ルームの開設、平成13年には学校図書館開放による地域文庫の開設など、スポーツ・文化を核に活発なコミュニティ活動をすすめてきました。少子高齢化の進展の中、5年10年後を想定したコミュニティ見直し検討会を平成22年度に開催、住民ワークショップやアンケート調査を通じて、さまざまな世代が寄り合い、支えあう取組が必要との結論が得られました。平成23年度 愛知県新しい公共支援事業で「多世代で支え合うしくみづくりとしての、常設型多世代交流拠点」をテーマとした地域縁卓会議に参加したコミュニティ会長がサポートちたに相談。コミュニティで拠点づくり実行委員会が立ち上がり、知多市市民活動センターの情報提供をもとに、厚生労働省地域支え合い体制づくり事業の資金調達を図っていきました。常設型交流拠点づくりは「経営」が大きな課題であることから、コミュニティ会長とサポートちたが「縁結び人」となって、「地域縁卓会議」が立ち上がりました。多世代交流を目指す点で、事前に関係者の情報共有が必要であるとの判断から、コミュニティ内の商店や保育園、学校などの関係者との地域縁卓会議を行うこととしました。

知多市南粕谷コミュニティデータ (平成25年1月1日現在)

面積:1.76km²、人口:5,341人

世帯数:2,030世帯、高齢化率:35.8%



② テーマの趣旨

南粕谷コミュニティが自主設置運営する多世代交流拠点(南粕谷ハウス)を常設にするための経営戦略を考えることを目的としました。その際の論点としては、「多世代交流拠点をどう構築するか?」「常設型拠点の自立運営」という2つを設けました。この協議では、もともと、市内一の高齢化率を課題とし、元気高齢者の介護予防を図る「地域の居場所づくり」の実践が先にありました。同時に、この地域のもうひとつの課題として「少子化」があるため、一挙両得で課題解決できる方策として「多世代交流拠点」という視点を設けました。この交流拠点の運営方法を検討するにあたり、「高齢化」と「少子化」が進行した10年後にも継続して運営できるような活動内容とその管理費の生み出し方を考えることとしました。

2.参加者の選定

☆ メンバー構成に配慮したポイント

- ・地域の活動団体や、事業者、教育機関の代表者、行政などから人を選ぶ
- ・多世代交流をテーマとした地域の活動拠点であるため、普段の地域の会議では出会えない20代・30代の若者も選ぶ

☆ 参加者の構成(12名)

	所属	役職	性別	年代
N P O 等	南粕谷ハウス拠点運営チーム		男	30代
	おたすけ会	会長	男	70代
	知多市南粕谷コミュニティ	会長	女	50代
	民生児童委員		女	60代
	南粕谷校区子ども会	校区長	女	40代
	知多市市民活動センター		女	50代
企 業	JAあいち知多粕谷支店		男	20代
	タキタ文房具店	店長	男	30代
行 政	知多市立南粕谷保育園	園長	女	50代
	知多市立南粕谷小学校	校長	男	50代
	知多市立旭南中学校	教頭	女	50代
	知多市生活環境部市民活動推進課	副統括監	男	50代



3.会議の準備と進行

☆事務局体制

- ・コーディネーター：知多市南粕谷コミュニティ会長、(特) 地域福祉サポートちた2名
- ・ファシリテーター：久野美奈子氏（(特) 起業支援ネット 代表理事）

☆地域円卓会議スケジュール／会場：知多市立南粕谷小学校内 生涯学習ルーム

回	日時	目的	内容	参加人数
1	9/26 (水) 19:00～21:00	相互理解 地域ビジョン の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・南粕谷のこれからの期待 	11名
2	10/23 (火) 19:00～21:00	知多市の子ども、若者に関する現状の課題の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会からの現状報告 ・知多市の福祉、子育て支援の計画と現状報告 ・南粕谷の子ども、若者について、気になる現状把握 	12名
3	11/22 (木) 19:00～21:00	相互理解 アイデア出し	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・実行委員会からの現状報告 ・南粕谷ハウスの活用アイデア 	9名
4	12/4 (火) 19:00～21:00	アイデア出し 自由な意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・南粕谷ハウスの活用アイデア 会場：南粕谷ハウス	10名
5	12/26 (水) 19:00～21:30	南粕谷ハウスの経営について	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティビジネスの経営とは（概論） ・経営資金確保のためのアイデア 	11名

☆コーディネーターの動き

縁結び人（コミュニティ会長とサポートちた）は互いに連絡を密にし、情報の共有を大切にしました。会議以外の場でも現場の改修作業に参加したり、第4回のプログラムを南粕谷ハウスで開催した際は、準備・片付けなどを参加者やオブザーバー（地域の人）と共に手伝えるなど、一人ひとりをつながり（信頼関係）づくりを積極的に行いました。特に、会議以外の時間で“想いと本音”を聴く時間を大切にしました。

☆ ファシリテーターの目線

「地域円卓会議のメンバーは、テーマ（南粕谷ハウス）について、これまでの経緯を熟知している方から、会議ではじめてテーマに触れた方まで様々でした。南粕谷ハウスを多様な方の集う本当の地域の居場所にするためには、参加者全員にとって本テーマが『自分ごと』になることが大切と考え、テーマについてのこれまでの関わりに関係なく、対等な立場で意見交換ができる『各回のプログラムテーマ（例えば、経営資金確保のためのアイデア出し）』と『意見交換の場』を設定することに努めました。また地域外のオブザーバーにも、時にはグループワークへの参加等によって話し合いに加わっていただいたことで、参加者にとっても新たな気づきがあったようです。」

☆ 参加者の声

- ・議論することの楽しさを味わうことができる。本音と言える楽しい場です。
- ・いろんなやり方で方向性を見つけていき、参考になりました。ただ、当ハウスの場合、立上げまで期間がなく、もっとスピーディにしても良かったと思います。
- ・いろいろな立場の人が、いろいろな角度から意見交換できるので考え方の幅が広がりよいと思います。
- ・こういう場は初めてなので最初はストレスを感じましたが、たいへん良い勉強をさせて頂いて感謝しております。
- ・貴重な意見、特に自分が信じた意見、考えが他人にとって価値がまったく違うという事を認識させてもらいました。

☆ 会場の様子



円になって共有する場合があります



第4回現場（オープン前の南粕谷ハウス）にて

4.まとめと公開

☆ 会議の結果

南粕谷ハウスの事業アイデアと、南粕谷ハウスで管理費年100万円を生み出す方法(案)をまとめ、実行委員会に提案を行いました。

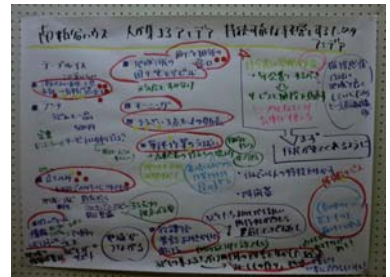
＜南粕谷ハウスの事業アイデア＞

会場投票により5点以上獲得したアイデア(上位4位)

1. 独居高齢者向けモーニング(少量のご飯またはおにぎりともそ汁)
2. 不使用道具・工具預託、有料貸出
3. ワンコイン居酒屋(飲み物・乾きもの、持ち込み)
4. 塾(英語、生き方)

経営のポイントとして出た意見

- ・小さい時間の短い事業をたくさん集めた「事業複合型」で運営する
- ・会費は管理に手間がとられないよう年会費制にする
- ・サービスと値段を見直し、気軽に使えるシンプルな仕組みにする
- ・損得ではなく、地域をよくするためという意義の醸成が必要
- ・活用できない空白の時間帯を作らないように工夫する



＜南粕谷ハウスで管理費年100万円を生み出す方法(案)＞*年100万円とは、家賃と水光熱費の1年分

平成25年度は、賛同者による寄付金を集める。

- ・賛同者の寄付は1万円×100人もしくは、1,000円×1,000人を想定。
 - ・事業者からは寄付金やイベント広告料を集める。
 - ・運営者はバザーやチャリティ鍋などを実施する。
- 平成26年以降は会費制にして集める。
- ・運営者・利用者は個人会員や賛助会員に、利用団体は団体会員になる。
→1万円×100人、10万円×10団体などはどうか。
 - ・住民からコミュニティ会費として300円×戸数分を集めてはどうか。
→この場合は住民合意が必要となるため、コミュニティ内の段取りを要する。

5.成果の活用

提案事項は実行委員会に持ち込まれ、管理費の生み出し方は、平成26年度からの会員制をめざし、寄付金で実働していくことが決まりました。運営は、月から金曜日の午前10時から午後3時の時間帯にサロンとして開けていきながら、月1回のイベントや届けられたニーズに応じて事業や活動を展開していく予定です。南粕谷ハウス拠点運営チームを知多市民活動センター(知多市、サポートちた等が協働運営)が伴走支援していきます。

4. 地域円卓会議を企画しよう

～活発な意見が出て、その後実践につながるような会議をつくるには～

(1) コーディネーターは誰が担当の？

「私たちの地域でも、地域円卓会議をやりたい！」と思い、この冊子を手にとったあなたは、コーディネーターとしてふさわしいと言えます。行政職員の他にも地域の中間支援機関や社会福祉協議会の職員も適任者と言えるでしょう。また、事例から見ても地域課題を把握したNPOの実践者や市民が、会議を設置できる立場にいる人（行政や中間支援機関の職員）と二人三脚で担っていくことにより、地域円卓会議の有効性は一層高まると考えられます。

コーディネーターは、主に会議の全体像（テーマ・参加者）を設定し、会議の運営実務・内容のまとめを行うなど、会議の土台を固める役割を担います。地域円卓会議の成否はコーディネーターの調整力・実務能力に大きく影響を受けると言っても過言ではありません。もし、会議遂行に不安がある場合は、事前に体制を整えておくといよいでしょう。

さらに、地域円卓会議の事務局運営には経費を要します。経費を確保できない場合は、自前でコーディネーターやファシリテーターを担えば開催も不可能ではありませんが、第三者のファシリテーターを起用することで視野も広がるため、できる限り予算化することをおすすめします。

(2) テーマを設定しよう！

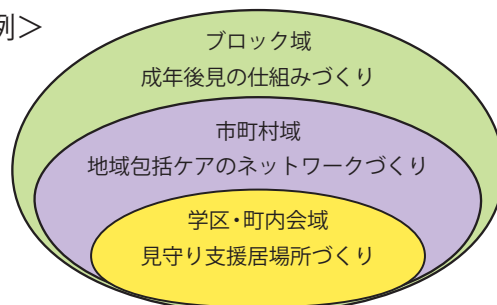
ネットワークづくりや具体的な実践につながるなど、期待する成果を踏まえたテーマを設定します。場合によっては、有識者やNPOなどに相談に乗ってもらうのもよいでしょう。

地域円卓会議に適したテーマは、中長期的課題や多様な関係者が関わらないと解決しない課題などです。地域の現状等を踏まえて設定しましょう。

次に、テーマに則して地域的な範囲（エリア）を決めます。例えば専門的なテーマ、または新しいテーマの場合は、ブロック域で取り組むといよいでしょう。基礎自治体の施策に関わる課題では、市町村域を設定します。さらに、支えあいの仕組みづくりなど、日常的・継続的な取組が必要になるテーマは、学区や町内会が相性がよいとされています。

<テーマとエリアの関係性の例>

高齢者福祉の分野



(3) 参加者を選定しよう！

参加者の選定は、テーマ設定に並ぶ重要なポイントとなります。主体的な話し合いを目指すため、全体で10人程度にしましょう。テーマの利害関係者や、積極的に情報提供をしてくれる人など、全体のバランスを見ながら選定します。職位なども勘案し、毎回必ず出席なくてもフォローできる体制や仕組みを整えることで、参加のハードルを下げるすることができます。特に、組織の中の実務者と、意思決定者が異なる場合は、注意が必要です。実務者と責任者の二人一組で参加する方式(二重円卓方式)なども検討するといいいでしょう。

なお、参加者への最初の呼びかけは、誰からどの順番にするのか、誰と一緒に行って趣旨を説明するのかなどの工夫をし、余計な手間をかけないように配慮しましょう。

参加者呼びかけの困った！ どうしよう！ お助けメモ

企画した目的、目標を達成するための地域円卓会議とするために、参加者一人ひとりに丁寧な説明を心がけましょう。

【困ったケース1】「地域円卓会議の説明をしても、伝わらない。」

- (1) まずは、参加してもらうことが重要です。相手のメリットを伝えましょう。一番のポイントは、テーマに対して共に課題解決できるという点です。
- (2) 意味や意義は、参加して初めて気づきます。第3回くらいまでは居心地が悪いと感じる参加者もいるでしょう。その様子に気づいたら、会議の時間外で、じっくり話を聞く時間を持ちましょう。
- (3) もし、参加を迷っている人がいれば、下記の3点の心構えを伝えましょう。あとは、あなたのメッセージ次第です。

<地域円卓会議に参加する際は・・・>

- ・自分が貢献できることを探り、参加する
- ・相手の話に耳を傾ける
- ・常識や思い込みに捉われず、自由な発想をする

【困ったケース2】「参加しないと断られた。」

- (1) 断られても大丈夫。また次の人を探し、参加依頼に行きましょう。
- (2) 同一組織の別の人でも構いません。テーマ(地域課題など)について人脈が広がるチャンスだと捉え、前向きに参加依頼に行きましょう。

※参加依頼をしていないが、参加したいという声が聞こえたら、積極的にオブザーバー参加を呼びかけ、公開の場にしていきましょう。積極的な参加から、情報がもたらされ、活発な会議の原動力になるでしょう。

(4) 地域資源を活用する視点で企画をしよう！

ただ議論だけで終わってしまうのではなく、何かしら実践につなげるような会議を目指しましょう。

そのためには資源を活用する視点で会議を展開することです。地域の「足りないもの」に焦点を当てるのではなく、例えば空き家や耕作放棄地、高齢化なども地域の「資源」と捉えて検討すると、実践への意欲やイメージが湧いてきます。

- ・事例(1)の阿久比町では、第3回のプログラムに地域資源として参加者の持つ稲作の作業場や、蕎麦畑、高齢者のサロンを見学に行きました。
- ・事例(2)の南粕谷地区では、空き店舗を活用した南粕谷ハウスという居場所をテーマとして地域円卓会議を設定しました。

5. 運営のいろは

～会議のスケジュール設計と、その準備・進行について～

(1) 会議の準備・進行をしよう！

テーマと参加者の決定後、会議の設計をします。スケジュール作成を含めた準備から進行に至るまで、ファシリテーターとコーディネーターの連携は必須です。役割分担は、事前に決めておきましょう。

① コーディネーターの役割

各回の会議時間は限られています。毎回の会議の時間を最大限生かせる進行のための段取りをするのが、事務局の役割となります。

資料の準備等を含め、進行担当のファシリテーターと事前打ち合わせを十分行いましょう。

具体例

- 会議の設置のための準備 — 会議の設置に関わる事務
 - 全回を通じての進め方の設定（ファシリテーターと相談）
- 会議の運営実務 — 各会議の連絡・資料準備等（ファシリテーターと相談）
 - 各会議の議事録作成と配布

② ファシリテーターの役割

異なる立場の参加者に対して、円滑かつ有効な話し合いを進めるためには、ファシリテーターの存在が不可欠です。ファシリテーターは単なる進行役ではなく、参加者のコミュニケーションを促進し、創造的な議論の場となるような、中立的・側面的なサポートをする役割が求められます。

具体例

- 事前準備 — 各会議の進め方を企画（議論の進行により臨機応変に変更する）
- 会議中 — 会議の冒頭で、前回の振り返りと、当日の会議のねらいの確認
 - 会議の進行方法、参加者に期待されること、運営ルール等の確認
 - 会議の進行・発言の促進
 - ⇒異なる意見の整理・論点の引き出し⇒整理
 - 会議の結論の確認、次回のねらいの確認
- 会議後 — 議事録の確認
 - 次回の進め方の打ち合わせ、必要な書類の作成等

③ 全体プログラムの設計

参加者は所属する組織や年齢層、男女比が異なる場合も多いでしょう。そのため、テーマに関する話し合いから解決に向けた方向性を共有するためには、5回程度の会議を設定することが望ましいとされています。

特に、プログラムの1～2回目は「相互理解」と、テーマについての「現状と課題を出し合う」ことを丁寧に行うと意見も出やすく、議論が前に進みやすくなります。足踏みをしたような感覚を得るかもしれませんが、相互理解に時間をかけることで、ネットワークづくりを促進することができます。

*地域円卓会議の標準的な全体プログラムイメージ

回	目的	基本的な内容
1	現状と課題・問題意識の相互理解	① 地域円卓会議についての説明 ② 各参加者の取組の現状紹介 ③ テーマに対する課題・問題意識の相互理解 ④ 共有できる論点の確認
2	課題を掘り下げて問題構造を分析し、その上で目標を共有する	① テーマに関する事例発表 ② 問題の原因分析・本質の確認 ③ 目指す将来の姿の共有
3	取組におけるアイデアを出し合う	① 取組についてのアイデア出しと整理 ② 取組例の柱立てと課題解決に向けた方向性の検討 ③ 連携の可能性について意見交換
4	課題の解決策の方向性を整理する	① 課題解決策の方向性の共有と役割分担 ② 取組と発展のステップの検討
5	今後のスケジュールと役割分担の検討をする	① スケジュールの進捗管理方法の検討 ② 今後のスケジュールの意見交換 ③ 地域円卓会議の振り返り

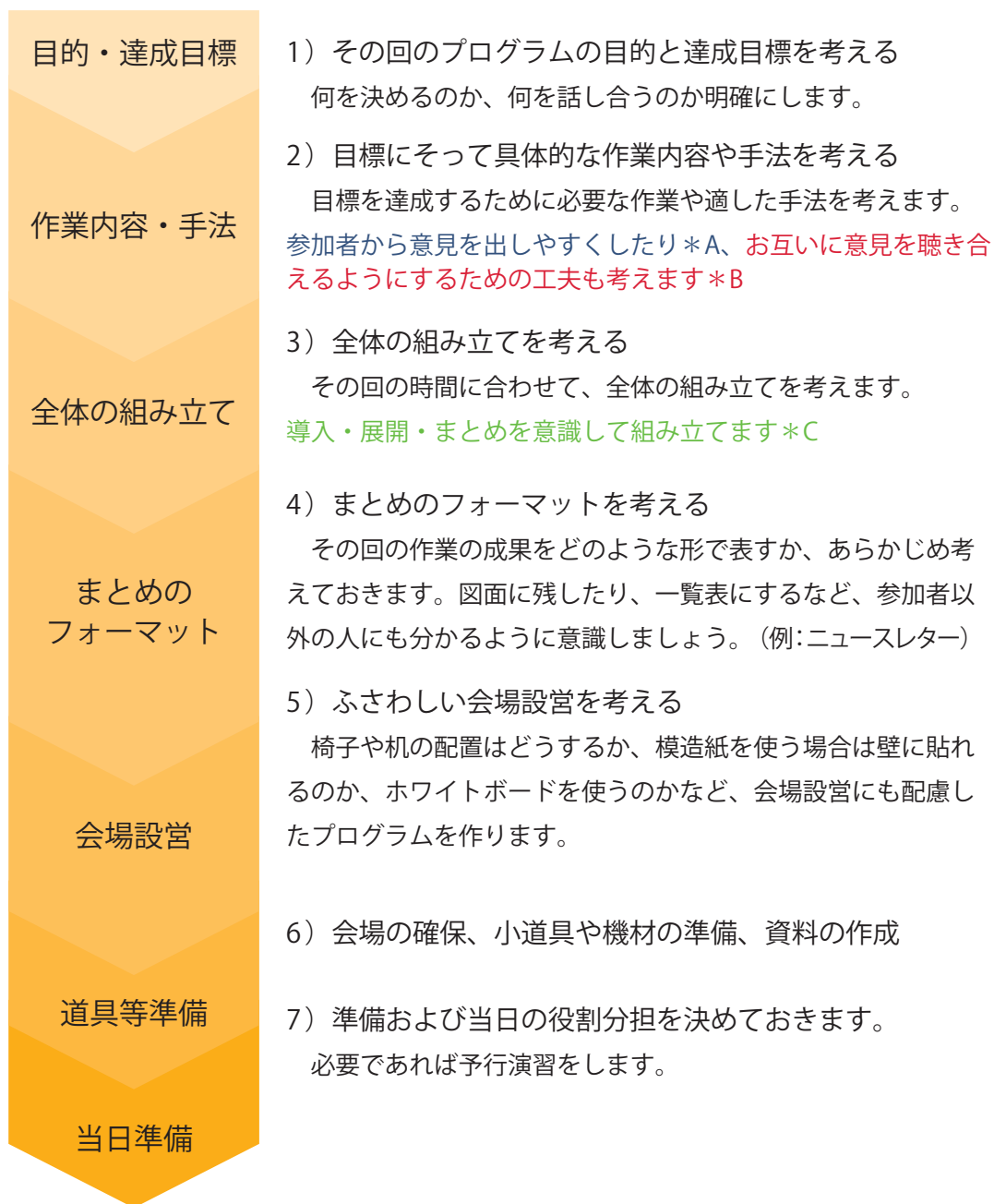
※ 地域円卓会議の目的に応じて全体プログラムは変化します。

※ 設定した目的を達成するために必要なプログラムを設計してください。

※ 協働ロードマップの手法を活用してまとめることも有効です。（参照 p.4）

④ 各回の設計

プログラムの目的と達成目標に従って、参加者が参加・交流しやすい場を整え、成果に直結する進行を行います。



各回開催にあたって、コーディネーター、ファシリテーターで毎回設計会議を持ち、前回の反省・改善と次回プログラム立案について話し合います。

* A 「参加者から意見を出やすくするためには？」

方法1 リラックスした雰囲気をつくる

会議中、参加者の緊張をほぐすことで意見を出しやすくすることができます。例えば議論に入る前にアイスブレイクワーク（場を和ます雰囲気づくりのワーク）をしたり、協議をしやすいように会場レイアウトを変化させたり、お茶菓子を用意するなど、会場内の雰囲気づくりに配慮するとよいでしょう。

方法2 グループの大きさを工夫する

阿久比町も南粕谷コミュニティも、アイデアを出すワークショップでは、3～4名の小グループに分かれグループファシリテーターが記録をしながら話し合いを進めました。どのグループもホワイトボードに模造紙を貼り、そこに椅子を半円状になるようにセッティングして意見を言いやすい場づくりを行いました。

* B 「お互いに意見を聴き合えるようにするためには？」

参加者全員が安全で安心できる会議の場を作れるよう、心を配りましょう。

【困ったケース1】「地域の大御所が延々と話してしまう」

[解決方法]

例（1）用紙やポストイットに書いてから話してもらう

（2）若い人順など、順番を決めて話をしていく

（3）話し合いのグループサイズを工夫する

2人の場合：「しっかり聴く」姿勢を持って、自分の考えの整理ができる

3人の場合：文殊の知恵として、新しい気づきやアイデアが生まれる

4～6人の場合：多様な気づきが生まれる主体的な話し合いの限界数

【困ったケース2】「一方的に批判や否定を言う人が、場を凍らせてしまう」

[解決方法]

話し合いのルールを作る

例（1）他人事ではなく、自分事として考える

（2）お互いの立場・価値観を尊重し、学び合う

（3）否定・批判・要望ではなく前向きな意見や提案を出し合う

（4）「できない」ではなく、「どうすれば可能になるのか」に意識を向ける

（5）一人の発言は3分以内を目安にする

*ルールは参加者に「大切だと思うことは？」と確認しながら作るとういでしょう。

*C 「導入・展開・まとめの組み立て」

その回のねらいがどんな点にあるかで、プログラムの構成は異なりますが、基本的に、以下の項目を順に進めるとスムーズに進行しやすくなります。

1. 前回の振り返り
2. 本日の目的の確認
3. アイスブレイク（場が和む雰囲気づくり）
4. 本題の議論
5. まとめ・発表
6. 振り返り・アンケート

例えば、南粕谷の第4回目では第3目に引き続いて、「南粕谷ハウスの活用を考える」ことが目的でしたが、改装中の南粕谷ハウスに会場を移し、アイデア出しを経て方向性を見出していくという展開のために、2時間の会議を以下のようにデザインしました。

時間	ねらい	進行
	第3回の協議で出た、活用策の一つ“持ち寄り居酒屋”を模擬体験しながら、南粕谷ハウスのあり方を考える。	(準備) ハウスに机を3グループ分設置し、周りに椅子を配置する。壁に模造紙と前回のまとめを貼る。持ち寄りの飲食物を置く机も設置する。
19:00	1. 前回の振り返り 2. 本日の目的の確認	・実行委員会からの報告 ・ファシリテーターからの主旨説明 ・乾杯の発声
19:10	3. アイスブレイク	・グループ毎に持ち寄ったもの「あなたの一品」の紹介と自己紹介
19:40	4. 本題の議論	・飲食をしながら「どんなことをすれば人が集まるのか?」「お金の循環を作るには?」について、グループ毎に意見交換・全体共有
21:00	5. まとめ・発表 6. 振り返り・アンケート	(参加者：35名／オブザーバー含む)

(2) 結果をまとめて発表しよう！

会議全体の成果を、参加者以外にも見やすく分かりやすい資料（協働ロードマップやコンセプトペーパー）にまとめます。発表資料の活用として、意見交換会を開催したり、ホームページにアップするなど、会議の参加者以外からの意見も広く取り入れるための公開の場を作るとよいでしょう。（協働ロードマップ策定手順書・・・参照 p.4）

(3) 会議の結果を活用しよう！

会議によって生まれた実践を見守り、伴走支援を行います。例えば、会議後の参加者の動向について情報収集を行うなど、テーマについての地域での取組を見続けましょう。

【コラム】地域円卓会議はキーパーソンを産み出す場？！

地域円卓会議の参加者は会議への参加を通して、これまで経験のない人もまちづくりの役割を果たすようになっていくという特徴があります。それは、参加者の選定の時点で、それまで地域に対する想いがあっても実践や連携に結びついていない人（＝潜在的な地域のキーパーソン）を選んでいるからです。

潜在的なキーパーソンは、地域円卓会議の場で、情報を得て、自ら考え、仲間を得ていくことで、力を開花し、地域の中で役割を果たして行くようになります。

地域円卓会議は、そんな未来のキーパーソンを孤立させることなく、連携の場を提供していきます。新しい取組を産み出し、新たな地域力となる「協働プラットフォーム」を形成します。

6. おわりに

これまで述べたように、「地域円卓会議」は、既存のさまざまな会議やワークショップ、意見交換会とは異なります。新しい時代をその地域の関係者が自らの手で、関わりあって切り開く、契機をつくり出す仕掛けです。

課題解決の方向性が共有されると同時に、参加者が地域づくりの主体として立ち上がっていく、その成長を助ける仕掛けでもあります。いわば、住民自治をはぐくむ、プロセス重視の会議です。事務局を担うコーディネーターも、参加者とともに課題と向き合い、ともに解決策を考えることが大切です。その結果、自分たちがとりまとめた成果を活かし、各主体が行う課題解決のための取組を支援していく必要があります。

中間支援機関や社会福祉協議会、行政の役割は、今後ますます重要になってきます。

*本書の編集にあたり、下記のみなさんのご協力をいただきました。

村上眞喜子（特定非営利活動法人りんりん 顧問）

島田善規（市民協働ネットワークリコモねっと 代表）

神谷典江（特定非営利活動法人穂の国まちづくりネットワーク 代表理事）

石井久子（知多市南粕谷コミュニティ 会長）

鈴木貴雄（東浦町企画政策部協働推進課協働推進係 係長）

川合信嘉（一宮市企画部地域ふれあい課 主任）

前山憲一（社会福祉法人半田市社会福祉協議会 まちづくり課ふくし支援課 課長）

安井洋子（特定非営利活動法人もやい 代表）

（敬称略・順不同）

**平成24年度 愛知県新しい公共支援事業「NPO等活動基盤整備支援事業」
地域が変わる 地域円卓会議を開いてみよう！**

平成25年2月24日

発行者：愛知県県民生活部社会活動推進課

〒461-0016 愛知県名古屋市東区上笠杉町1 ウィルあいち2階

TEL 052-961-8100 FAX 052-961-2315 E-mail npo-plaza@pref.aichi.lg.jp

企画・編集：特定非営利活動法人地域福祉サポートちた

〒478-0047 愛知県知多市緑町12-1 知多市市民活動センター1階

TEL 0562-33-1631 FAX 0562-33-1743 E-mail spchita@ams.odn.ne.jp

監修：岡本一美／三島 知斗世

スタッフ：伊東かおり／市野めぐみ／江ノ上愛

地域円卓会議に関するお問い合わせは、

愛知県又は（特）地域福祉サポートちたまで。